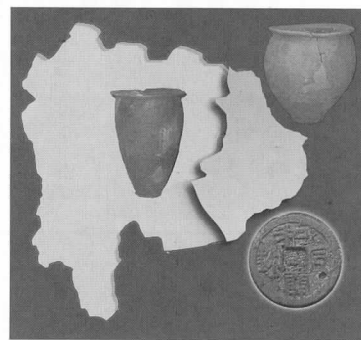


現在、山梨県の富士北麓・東部地域は北都留郡と南都留郡と呼ばれています。明治11年(1878)に南北に分けられるまでは、ひとつの郡でした。この都留という郡の名前は、およそ今から1300年前の奈良時代あたりから使われていたと考えられています。

さて、この都留郡ができた古代(奈良時代、そして続く平安時代)は、山梨県は甲斐国とよばれ、国の政治の中心である国府(現在の県庁的な役所)は、笛吹市付近に存在したと推定されています。そして、都留郡にも郡の中心として郡家(郡衙)が存在しました。しかし、これまでこの郡家(郡衙)の所在地がどこなのかは分かっておりませんでした。平成16年(2004)に古代甲斐国官衙研究会の研究により、大月市の大月遺跡(県立都留高校の敷地周辺)の発掘調査事例を再検討した結果、古代の都留郡家(郡衙)である可能性が高まりました。少しずつではありますが、古代の都留郡の姿が明らかになりつつあります。都留市内の遺跡も再検討をすることにより、郡の下に存在した郷の様子を知ることができるかもしれません。

都留市は都留郡の中心的位置にあり、桂川流域を中心に古代(奈良・平安時代)の遺跡が多くみられます。都留市内には、それ以前の古墳時代の遺跡が極めて少なく、奈良時代になってからの遺跡が多くみられるようになります。ちょうど都留郡と呼ばれ始めた頃から集落に人が多く住むようになるのです。いったいなぜ、人々はこの地域に集まったのか、そしてどのような暮らしをしていたのかを都留市内の遺跡の発掘調査成果を中心に考えて行きます。また、古代(奈良・平安時代)の都留郡の様子を探るために大月市や上野原市で発掘された事例もあわせて紹介する予定です。

また、『山梨の遺跡展2004』(山梨県埋蔵文化財センター主催)の巡回展を同時開催して、平成16年度に山梨県内で発掘された遺跡(国指定史跡・甲斐銚子塚古墳ほか)の情報についても紹介します。



会 期	1月15日(日)～2月27日(日)
開館時間	午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)
観 覧 料	一般 300円(210円) 高・大学生 200円(140円) 小・中学生 100円(70円) ()内は20名以上の団体料金です。
休 館 日	月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館し翌日が休館)、第三火曜日、祝祭日の翌日
※分館「増田誠美術館」と共通券です。	

冬休みチャレンジ教室

●たこ作り・おもちつき教室

日 時 1月7日(土) 午前9時～

定 員 30名

参加費 200円

持ち物 たこ糸 ※大根の漬物販売もあります。

問合先 ミュージアム都留 ☎(45)8008

芭蕉句碑めぐりスタンプハイク入選集

応募総数188点の中から厳正な審査の結果、26点の入賞作品が選ばれました。

都留市長賞

勢いあり芭蕉も聞いた瀧の音

抱くほどの句碑に光あり涼新た

富士急行駅長賞

踏む落葉歩調合せて句碑めぐり

句碑めぐる人に微風のこぼれ萩

幾星霜句碑向き合て田原滝

燕去りまさをな空や句碑めぐり

都留市観光協会長賞

草紅葉思いは同じ句碑めぐり

蜻蛉のスイスイ飛びて句碑めぐり

緑陰にほっと一息句碑めぐり

秋晴れの城下町都留句碑めぐり

句碑訪ねとんぼと歩む都留路かな

くさもみじそつと照りそう翁の碑

故里の句碑をめぐりて秋惜しむ

路地裏の名残り簾や句碑めぐり

かなかなや樂時累代の墓所しずか

山門と句碑に紅さす薄紅葉

都留市俳句連盟賞

萩ゆれるペイント電車の二輪立て

滝音の響き沁み入る芭蕉句碑

訪れるはせおの句碑に秋茜

とんぼうや右へ曲れば芭蕉の湯

俳聖の句碑を飾りし紅落葉

芭蕉句をめぐりてふたり初とんぼ

秋風の露地抜け芭蕉句碑めぐり

句碑巡る田原の滝や紅葉晴れ

杖つきてめぐる句の旅つるの里

爽やかや芭蕉句碑ある城下町

松川樹海
平井芙蓉

柿澤英弘

志村芳春

郷田至水

藤江せつ子

白井理知子

山下正勝

藤本京子

小田桐洋子

望月 智

清水昭伯

市川和男

村上とみえ

志村登志子

渡辺勝栄

小笠原 勇

藤江俊夫

白井カツ子

関戸信治

森嶋 勲

八巻文子

渡邊伊勢乃

永田梅子

奥秋和子

田辺和代